



とらいあんぐる



2021 年 9 月

一音会ミュージックスクール発行

「逃げて良い」

こう書くと、きっと賛否があるでしょう。

でも、私はこの考え方が好きです。

「逃げて良い」

真剣にそう思っています。

「逃げてはダメ」という考え方を否定はしません。

かくいう私も、若い頃は「逃げてはダメ」派でした。

逃げるのはひきょう。逃げて楽をしちゃダメ。困難なことに自分を追い込

まないと成長しない。逃げずにがんばれば、かならず道はひらける。

そんなふうにいる人間だったように思います。

お父さまやお母さまも、自分の子どもには「逃げない人になってほしい」と願うことでしょう。

でも、勉強やスポーツの中では、「逃げてはダメ」であっても、世の中には「逃げて良い」ことも、けっこうあると思うのです。

私にとって「逃げてはダメ」は建前で、「逃げて良い」が本音です。

本音のところを、子どもたちにちゃんと教えないと、理不尽にじっと耐える人になってしまうのではないか、心を大きく傷つけられ、その深い傷に人生をくるわされるのではないか、そんなふうに思います。

「逃げてはダメ」派であった私は、後に心理学者になって、成人して発症する心の病気の多くが、幼い日の「すごく苦しいこと」に端を発していることを知るのです。

考え方を少しずつ変えていったのは、その頃からだったように思います。



「すごく苦しいこと」は、虐待やイジメといった分かりやすいものばかりではなく、他人からすると、ごくささいな出来事であったりもします。でも、当人にとっては、耐えがたく、受け入れがたく、悲しく、苦しく、つらく、屈辱的な出来事です。

こういった出来事の経験を「トラウマ」と呼ぶこともあります。

心に傷を負うような出来事は、やはり経験しないにこしたことはない、と思っています。

子どもの心は、生乾きのコンクリートに例えられることがあります。子ども時代に経験した恐怖や苦しみは、はっきりとした形として残り、生涯、消えません。

そもそも、すべてのことに「逃げてはいけない」と考えてしまうと、すごくおそろしい世界に思えてきます。

特に子どもは、閉塞的な小さな社会に生きています。それだけで息がつまりそうです。「逃げてても良いんだよ」

と、そっと耳打ちしてあげたくありません。

よく考えますと、おとなはけっこう逃げています。

真正面から立ち向かうことが時に得策ではないことを、経験的に知っているからでしょう。

特に人間関係は、そうです。その人物と距離をとったり、時間の流れを待って、ことの経緯が移り変わるのを待ったりするほうが、実際にはスマートで適切なやり方です。子どもにだけ「逃げてはいけない」というのは、不公平でしょう。

以前に、電話相談で、あるご相談を受けたことがあります。

皆さん、よくご存じのように、月曜日の19:00～21:00は、電話でご質問、ご相談を頂戴する時間です。

レッスンについて、主にご相談を受けますが、内容はレッスンにかぎりません。実は、いろいろな内容のご相談を受けています。

子育てのこと、学校でのこと、ご家族間のこと、生徒さんだけでなくお母さまの個人的なお悩み等も、きかせていただくことがあります。独善的であることを承知の上、私はいつも思ったままをお答えしています。

内容は絶対に口外しませんが、今回は、ご相談くださったお母さまに、ここに書くことをご快諾いただけました。

いつも「とらいあんぐる」に、学ばせてもらっています。うちの子の経験がどなたかのお役に立てるのなら、とおっしゃってくださいました。



小学校2年生の男の子、Aくんの身におこった出来事です。

Aくんは、一人、学校から家に帰る途中で、上級生の女の子の集団にからまれます。

女の子たちが話しかけてきました。

同じ学校の生徒ではあるものの、知り合いではありません。

急に知らない子たちから話しかけられ、Aくんはとまどい、なんと答えて良いか分からず、だまっていました。

Aくんが反応しないので、女の子たちは、持っていた体操着袋をAくんの身体にぶつけてきました。Aくんは、立ちつくしていました。

Aくんが無反応であることで、女の子たちの行動は、徐々にエスカレートし、袋をさらに強く、ぶつけてきました。

そのうち、勢いがつくと同時に、体操着袋は、いつしか上ばき袋になり、身体にぶつけていたものが顔面にもぶつけるようになりました。

袋に入っているとはいえ、固いゴム底の上ばきを、勢いよくぶつけられたら、顔を蹴られているのと同じです。

Aくんは泣きながら家に帰ってきました。顔は赤く腫れていました。

お母さまは悩みます。

どうしたら良かったのか。Aに何とやってやれば良いのか。今度、そのようなことがあったらどうしたら良いのか。

上級生とはいえ、相手は女の子。

「やり返せ」とはいえない。学年もちがうため、学校の先生にいても防げるかどうか……。先生に告げ口したことで、さらに何かされたら……。



私は、1番にお伝えしたいことをい
いました。

「逃げて良い」と教えてください。

「男の子が女の子から逃げるなんて
恥ずかしい」とか「逃げるのはひきよ
うだ」とか、いつている場合じゃあり
ません。複数の人間に囲まれて、一方
的な暴力を受けることが、幼い心にど
んなにダメージを与えるか、はかりし
れません。

理不尽な暴力に立ち向かうことは立
派なことですが、立ち向かわないから
といって、それが悪いことではありま
せん。

立ち向かわなくて良いのです。

自分の心を守るために、逃げる（そ
の場を去る）ことは、全然、恥ずかし
いことじゃないと、Aくんにお伝えく
ださい。

あとから「あんた、逃げたよね？」
と、女の子たちからかわれたら、「急
に用事を思いだした」といえば良いの

です。何も悪いことをしていません。
堂々としているべきです。

もちろん今回の件は先生にも伝え、
今後はお友だちと帰るようにする等、
できる予防はしなくてはなりません。

でも「いざとなったら走って逃げれ
ば良い」。それだけで気持ちは軽くな
るのではないのでしょうか。

夏休みが終わりました。

家庭の中という繭から出て、保育園
に、幼稚園に、学校に、生徒さんはそ
れぞれの社会に出ていきます。

お父さま、お母さまのいない場所で、
心や身体を傷つけられないか、私は真
剣に心配をしています。子どもが身を
置く社会は、おとなの想像より過酷で
す。

どうか「逃げて良い」と教えてください。

そして、逃げ方をたくさん、それも
できるだけたくさん、できるだけ具体
的に、教えてあげてください。

先日、ある保育園で、5歳の男の子が保育園の送迎の車の中に取り残され命を落とすという、あってはならない事故がありました。

ニュースをきいて、嗚咽したのは、久しぶりです。

私がさらに驚いたのは、死亡事故にはいたらなかったものの、数分から数時間、子どもが園バスに取り残される事故が、毎年、全国で何件もおこっていることが公表されたことです。

私の記憶の中にも、忘れられない事件があります。

数年前のことですが、作業所に通う、障がいを持った青年が、バスの中に取り残されてしまった事件です。

皆が帰る時間になって、車内で命を落とした彼が発見されました。熱中症でした。

どうかお願いします。

先生が気づくのを、じっと待つ子にしないでください。

クラクションを鳴らせば良いことを教えてください。

車のエンジンが切られていてもクラクションは鳴ります。

子どもに、クラクションの場所を教えてください。

子どもたちが苦しい思いをしないように！

苦しい場面に陥ったら、一刻もはやく逃げられるように！

「逃げて良い」

これが、夏休みが明けた今、一番、お伝えしたいことです。

(江口 彩子)



◆ピアノ発表会では、ご協力をありがとうございました

8月6日（金）、7日（土）、8日（日）、9日（月）の4日間にわたっておこなわれた「ピアノ発表会」が、無事、終わりました。

コロナ禍での発表会は、これが2回目ですが、「慣れ」にあまんじることなく、昨年以上の緊張感をもって、臨んだつもりです。

たくさんの生徒さんにご参加いただくことができました。今年は、この数年の中でも、もっとも多くの生徒さんに舞台上上がっていただくことができました。

いろいろなイベントが自粛になったり、形を変えたりする中、一音会としても、できるかぎりの発表会をおこなうことができ、今はほっとしています。

開催に踏み切ることができたのは、生徒さんやご家族の皆さまのご協力の姿勢があったからです。昨年の発表会のコロナ仕様の開催に際し、皆さまが惜しみないご協力をくださったことは、大きな安心材料となりました。そして、期待通りのご理解とご協力を頂戴し、無事に発表会を終えることができました。心から御礼を申し上げます。

今年も、ピアノ出演の生徒さんには、記念の金メダルをお渡ししました。今年がオリンピックイヤーであったことを記念し、図柄はオリンピックの男女です。後に見返した時、「そういえば、東京オリンピックの年だったな・・・」と、思い出してください。

図柄には、「勝者」という意味もあります。演奏には、勝ちも負けありません。ですが、コロナ禍の中、発表会を開催できたことは、「コロナに勝った」と思っただけ良いと思うのです。その記念です。



◆来年の発表会

来年の発表会は、2022年、8月5日（金）、6日（土）、7日（日）、8日（月）の4日間です。今年と同じ時期、同じ曜日です。

そして、場所も今年と同じ「アクトホール」です。教室の長い歴史の中でも、「いつもの時期、いつもの場所」です。

1年半におよぶコロナ騒動で、いろいろなことを変更しては、さらにそれを変更せざるを得なくなり、望まない新たな挑戦も、多く経験しました。できるだけ「いつもの形」であることを求めたのは、心が平穏を求めているせいかもしれません。

来年のこの時期、世の中がどうなっているのか、想像が付きません。ですが、はっきり分かることもあります。

生徒さんは、さらに成長し、さらに上手になられ、舞台上で立派な演奏をされるのです。それだけは、強く確信します。

来年の発表会を以下のように開催いたします。

日時：2022年8月5日（金）・6日（土）・7日（日）・8日（月）

場所：「アクトホール」（東武東上線「成増」駅より徒歩1分）



◆「音楽の集い」を開催します

一音会では、文化の日を毎年、“音楽を愛する人が集う日”と決めて、おとなの方の発表会「音楽の集い」を開催しています。

20年以上続いた会を、去年は断腸の思いで中止しました。理由は、コロナでした。

今年は、「音楽の集い」を開催いたします。どうぞ2年分の練習の成果を、披露してください。

一音会にかかわる、おとなの方全員に参加資格があります。基本は、一音会でレッスンを受けていらっしゃるおとなの方の発表会なのですが、レッスンを受けていない方、例えば子どもの生徒さんのお父さまやお母さまにも、ご参加資格があります。

「垣根をとりはらって、音楽を愛するおとな同士、楽しみましょう」という趣旨です。ピアノ以外の楽器でご出演いただくこともできます。伴奏が必要であれば、スタッフが伴奏いたしますので、ご相談ください。

日程：2021年11月3日（祝）

場所：「ヘンデルはうす」（午前）

「ひびきホール」（午後） ※場所とお時間をお選びいただけます

例年と大きく違う点が1点、あります。今年は、「無観客開催」とさせていただきます。理由は、コロナ感染防止です。お一人ずつ入室いただき、ご出演者が入れ替わるごとに換気をします（ご家族は、入っていただけて結構です）。

演奏を撮影させていただき、それをYouTubeで配信いたします。閲覧制限をかけ、事前にご案内した人以外の人は閲覧できない形とします。

お客さまの前で演奏できないことは、たいへん残念なことです。無観客の形には、無観客ならではの良い点もあります。

無観客のメリット

- ① コロナの感染リスクを、ほぼゼロにできる。
- ② 遠方の方にも、演奏を観てもらえる。
- ③ その日時、都合が悪い方にも、後日、演奏を観てもらえる。
- ④ 制限時間内なら、弾きなおしできる。
- ⑤ 直前に指ならしや発声練習をして良い。

ご出演をご検討くださっている方に、「音楽の集い」のご案内を差し上げたいと思っています。「ショパンはうす」受付にご請求ください。

◆これまで以上の感染防止を

デルタ株がこれまでと違うことは、お子さまを持つご家庭では、大きなトピックであると思います。私どもも、これまで以上の緊張感を持って、レッスンにあたっています。

私どもスタッフは、ほぼワクチン接種を終えています。ですが、お子さまはもちろん、ご家族の皆さまの中には、未接種の方もいらっしゃると思います。

お子さまにとって、マスクが心地よいものではないのは当然ですが、現状、マスクは必須です。今一度、マスク着用、手指消毒のルール厳守を、お願いいたします。教室受付には、不織布マスクを常備しています。マスクのゴムが切れたり汚れたりした場合は、すぐに差し上げますのでおっしゃってください。

*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp

電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。